

〔 2 〕 高柳記念奨励賞（ 2 件）

もり けん いち
森 健 一 氏（株式会社東芝 常務取締役）

“ワードプロセッサの開発”

（株）東芝は、1979年国内他社に先駆けて日本語ワードプロセッサを世に出して以来、一貫して日本語ワードプロセッサの技術及び商品開発に貢献し続けている。その開発段階の初期において、氏は、独創性に溢れた数々の技術開発を行ない、それを日本初のワードプロセッサ JW-10の市場投入へと結び付けた。以下にその業績の概要を記す。

- (1) 1972年以来継続的にかな漢字自動変換技術の研究開発を行ない、その技術を用いて1979年国産初の日本語ワードプロセッサ（JW-10）を完成した。JW-10ではひらがなでキーボードより入力し、漢字に変換することにより、一般の人でも英文タイプライターに匹敵する高速入力が可能となった。また、かなと漢字を対応づける辞書に熟語辞書を用いることにより、日本語特有の同音異義語の数を減らした。さらに、同音異義語を識別するために、文法による解析技術を導入した。これらのかな漢字変換技術は、現在でも最も効率よく文書を変換する方式として利用されている。
- (2) 利用者個人にとってよく使う文字は優先的に変換される同音異義語の学習機能の開発を行ない、日本語文章入力を実用的なレベルへ高めた。このために2つのアルゴリズムを用意した。一つは、「最近使用語優先機能」であり、短期的な学習を行なう。二つ目は「長期頻度学習機能」と呼ばれるもので、長期的な言語使用傾向を反映する機能を実現した。
- (3) CRT画面と対話形式での、入力／編集／校正ヒューマンインタフェース技術の開発を行なった。単語を選択する場合の他、訂正、挿入、削除、移動、全文対象、タブ、インデント等幅広く機能し、今日の日本語ワードプロセッサの基礎となっている。
- (4) 日本語ワードプロセッサに向けて安価で小型のドットインパクト方式の漢字プリンターの開発を行なった。さらに、日本語をきれいに表示するため、24x24ドットの文字印字を可能とした。

以上、氏は国産初のワードプロセッサの開発に向けて数々の優れた技術を開発した。ワードプロセッサは基本的には計算機ではあるが、以上の数多くの工夫により、当時複雑な計算機にアレルギーを持つ事務部門などの一般の人々が誰でも使えるオフィス・オートメーション機器として爆発的に普及をして今日に至っている。

また、そこに盛り込まれた上記の技術は、現在の日本語ワードプロセッサの技術の核になっていると同時に、最近急速に需要が拡大しているパソコンの日本語入力にも重要な役割を果たしている。